In-between Renovation

棟間増築による市庁舎等群の再編

都市デザイン研究室 cy16011 北村亜紀

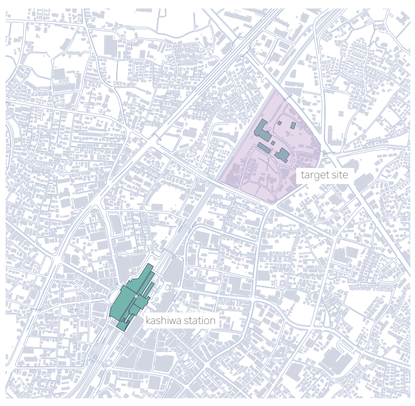
研究背景と目的

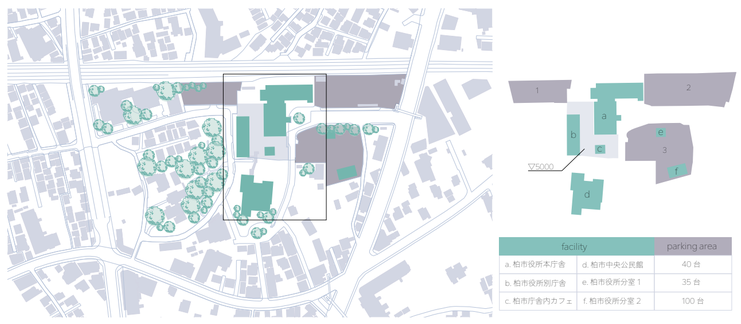
建物同士の間 (ま) や空間の内外の間 (あいだ) などの中間的領域は、単なる空間同士の隙間ではなく、パブリックスペースとプライベートスペースの双方が寄り添い合うことで、出会いと調和が生まれる「 In-between」の空間として価値を見出すことができる。本研究は、公共施設群の中間的領域、すなわち In-between の空間デザインによって公共施設空間全体の質を高めることを目的とする。

「 In-between」の空間とは、他者の境界線と境界線により決められ、出現する曖昧な空間である。そのため、あらゆる空間の例によって、出現する In-between の空間の機能や役割も変化する。以下に In-between の空間例、機能、役割をまとめる。a-c の例のように、In-between の空間は人々の交流によって「 交わる」空間と、移動手段やモード転換のための「 転じる」空間の二種類に分類できることがわかった。また、周囲に新しく建てられる建築物や既存の建築の用途の変化によって、この空間の役割は変化していくと考えられる。そのため、建築群の増改築を行なう際には、建築同士のつながりに加え、「 In-between」の空間にも意識を向ける必要がある。

site analysis

千葉県北西部に位置する柏市を計画地域に設定する。柏市は、人口約 43 万人の中核市および業務核都市である。1896 年の常磐線柏駅開業をきっかけに発展が始まり、1960 年代からは東京のベッドタウンとしての開発も進められた。そして多くの森や農地が大規模な団地などに転用され、人口が急増した。特に、柏駅周辺は百貨店や商店街などの商業施設が充実している他に、地域のまちづくりを計画する柏アーバンデザインセンター (UDC2) も位置しており、様々な地域活動を促進する役割を担っている。

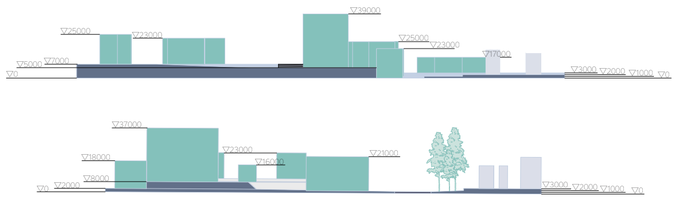




facility		parking area
a. 柏市役所本庁舎	d. 柏市中央公民館	40 台
b. 柏市役所別庁舎	e. 柏市役所分室 1	35 台
c. 柏市庁舎内カフェ	f. 柏市役所分室 2	100 台

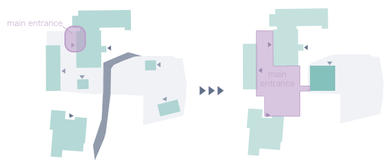
敷地平面図および既存建築群構成図 (scale=1:5000)

section analysis



右の断面図のように、対象敷地は傾斜によって複雑な W 地形となっており、その高低差によって、建物同士が複雑にデッキでつながれている。また、駐車場が複数箇所に点在しており、建物周辺を車が動き回る位置関係にある。そのため歩車分離がなされておらず、歩行者にとって非常に危険な状態である。

concept - In-between の空間が作りだすメインエントランス

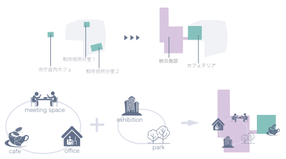


Renovation methods

①分散された各施設の統合
②訪れやすいバリアフリー化
③地下化による動線の分断解消

現在は、各施設にそれぞれのエントランスが設けられている状態であり、そのエントランスが一見して分かりにくい。また、対象敷地は高低差があり、加えて道路によって分断されているため、歩行者にとって危険な環境である。そこで以下の手法によって、既存の柏市庁舎の各施設の間 (In-between) にメインエントランスの役割を担う空間をデザインする。

①分散された各施設の統合



分散された各施設のうち市庁舎内カフェ、柏市役所分室 1、分室 2 に展示機能、グリーンスペースを加えたものを統合施設として設計する。分室があった駐車場の一部のスペースには、市庁舎職員と市民の両方が利用できる新しくカフェテリアを設計する。

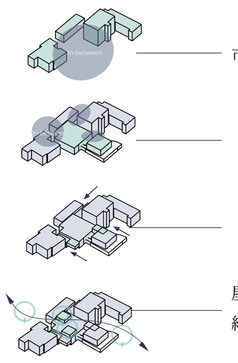
②訪れやすいバリアフリー化

駅の方から訪れる人々が既存の柏市庁舎へたどり着くためには、大階段を登らなければならない。そのため本庁舎と別庁舎の両方アクセスできるようにコアを設置し、年輩の方々に気軽に施設を利用できるよう動線計画を行なった。

③地下化による動線の分断解消

車通りの多い道路を挟んだ位置に駐車場 2・3 が位置している。そこで、道路を挟んだ統合施設とカフェテリアを地下空間でつなげた。その地下空間により各施設へのアクセスを容易にするとともに歩行者の安全性を確保する。

design diagram



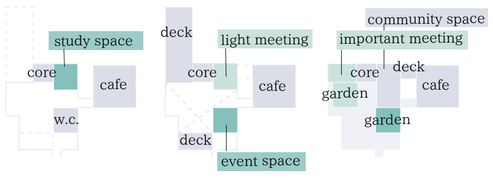
市庁舎を含む公共建築群の間 (In-between) に統合施設を設計する

統合施設、カフェテリアを設計することによってさらに建物同士の間 (In-between) の空間が生まれる

間 (In-between) の空間をデッキでつなぐ

屋上に庭園を設け、北側、南側の緑地空間の間 (In-between) を緑でつなぐ

function diagram

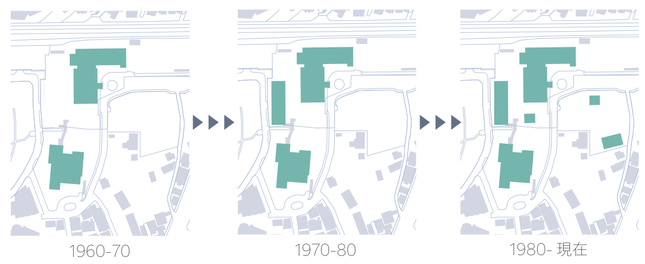


2F

1F

ユーザーを柏市庁舎職員と柏市民の二種類に絞った。1 階は吹き抜け空間を含む開放的なメインエントランス空間に加えて、市民が利用するスタディースペースを配置した。2階には市民のためのイベントスペースを配置した。また、市庁舎職員のための空間として、会議の重要度に合わせて使い分けることができるスペースを二種類設けた。そして、各ユーザーのための屋上庭園をふたつ設計し、リラックススペースを設けた。

history analysis



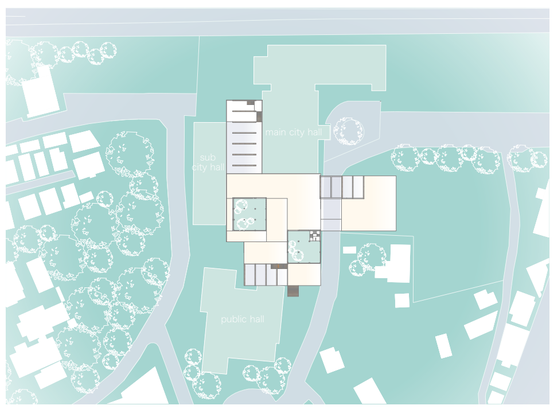
市庁舎を含む公共建築群の増築は右図のように時代ごとに重ねられていることがわかった。特に 1980 年から現在に至るまでの e. 分室 1、f. 分室 2 の増築については、駐車場のエリアの中に建物がポツリと立っている状態であった。これは、市庁舎で取り扱う手続きの種類などが時代を追うごとに増えていき、本庁舎、別庁舎だけでは対応しきれなくなってしまったことが推測される。また、c. 柏市庁舎内カフェは＋5000 レベルのデッキ上に孤立している状態であり、他の公共建築との空間的なつながりは感じられなかった。

site picture

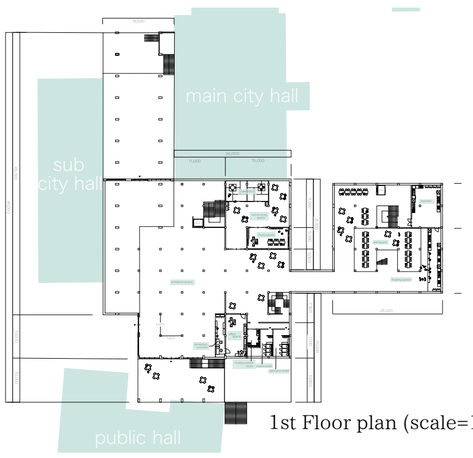
対象敷地航空写真　c. 柏市庁舎内カフェ　d. 柏市中央公民館

a. 柏市役所本庁舎　e. 柏市役所分室 1　f. 柏市役所分室 2

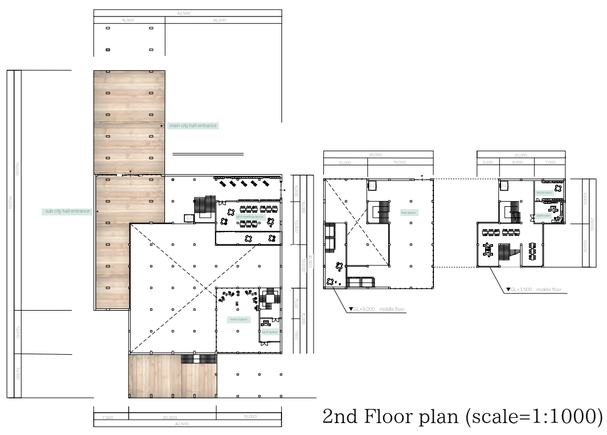
Floor plan



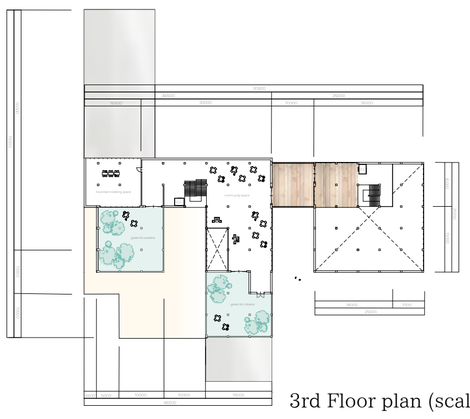
roof plan (scale=1:2000)



1st Floor plan (scale=1:1000)

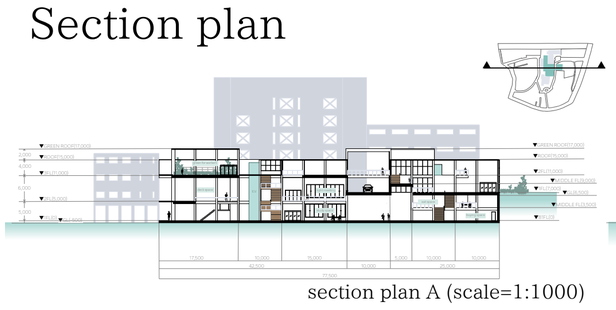


2nd Floor plan (scale=1:1000)

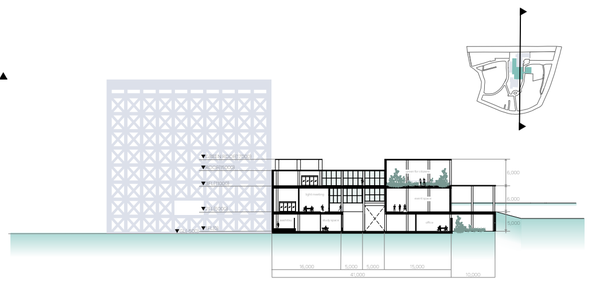


3rd Floor plan (scale=1:1000)

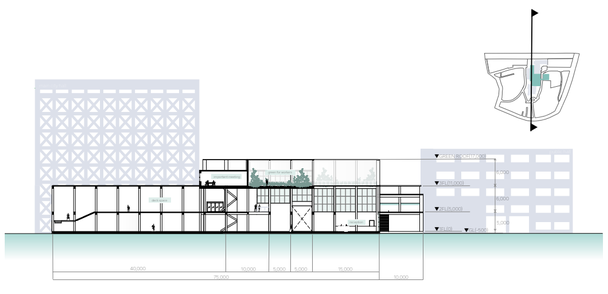
Section plan



section plan A (scale=1:1000)



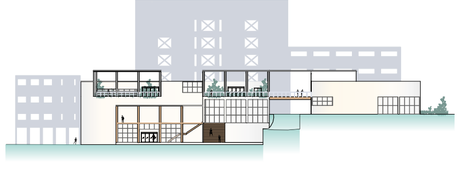
section plan B (scale=1:1000)



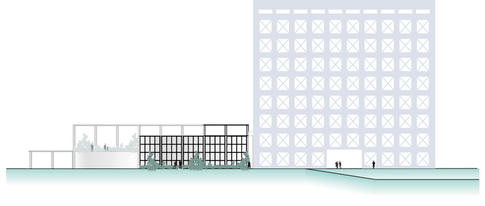
section plan C (scale=1:1000)

model photo

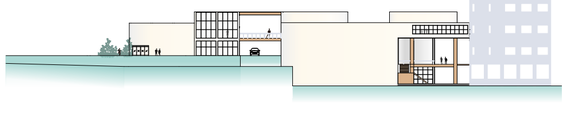
Elevation plan



east side elevation (scale=1:1000)



north side elevation (scale=1:1000)



west side elevation (scale=1:1000)